

【新たなゴルフ市場予測システムへの挑戦】

〈2015年問題への対応〉

レジャー白書2010・ゴルフ産業市場関連最新データ

コース潜在人口回復・ゴルフブーム再来か？

しかしインターネット調査に変更・過去データとの連続性は？

ゴルフ市場活性化委員会 マーケティング広報部委員

山岸 勝信

（財）日本生産性本部より「2010・レジャー白書」が刊行されました。これは1977年の創刊以来通算34号となります。ゴルフ産業需要の最新状況、過去34年間の推移を把握できる数少ない貴重なデータです。本号では「2010・レジャー白書」ゴルフ産業市場関連最新データについてお話しします。

インターネット調査への変更

本年より調査方法が従来より大きく変更されました。

〈従来2009年まで〉

1. 住民基本台帳を利用する。
 2. 全国5万人以上都市部の15歳以上の男女を対象とする。
 3. 二段階無作為抽出により3000サンプルを選ぶ。
 4. 調査員が対象者宅を訪問し調査票記入依頼し、時間をおいて回収する。（訪問留置法）
- 〈2010年か〉
1. ㈱インテージがあらかじめ募集し、登録された全国131万人モニターを利用する。
 2. 全国5万人以上都市部在住で15歳以上のモニターから従来に近い分散となるようサンプル

ルを抽出する。（抽出方法・数は不明）

3. 対象モニターにインターネットで調査票を配布し、インターネットで回収する。（結果有効回収数3110枚であった）

この調査方法変更により厳密には2009年までのデータと本年データの連続性は無くなったと考えざるべきです。今後数年インターネット調査結果が蓄積され、2009年までのデータとの比較検証ができるまでは長期時系列の分析には問題があります。2010・レジャー白書みずから

1. 日頃インターネットを活用している生活者の特性であること。

2. その結果、全体的に参加率が高めにでる（参加人口が大きくなる）傾向が見られることを、巻末に明らかにしています。

問題があっても、残念ながら私達には「ゴルフ参加率」はじめ需要関連データの時系列変化について、レジャー白書に代わる速報データを持っていません。以上を念頭に置きながら2009年と20

●最新2010レジャー白書 ゴルフ関連データ

表1

		2009		2010		
		2009年1月	2010年1月	前年比(%)		
レジャー白書年度		2009年1月	2010年1月	前年比(%)		
調査時期		2009年1月	2010年1月	前年比(%)		
有効回収数		2,415	3,110			
ゴルフコース	参加人口	950	960	101.1		
	参加率 (%)	8.6	9.4	109.3		
	年間平均活動回数 (回)	14.3	12.8	89.5		
	年間平均費用 (千円)					
	用具等	40.3	74.4	184.6		
	会費等	117.2	90.8	77.5		
	合計	157.5	165.2	104.9		
1回あたり費用		11,010	※ 12,906	117.2		
参加希望率 (%)		11.1	14.3	128.8		
ゴルフ練習場	参加人口	950	1060	111.6		
	参加率	8.6	10.3	119.8		
	年間平均活動回数 (回)	21.0	18.3	87.1		
	年間平均費用 (千円)					
	用具等					
	会費等	34.7	24.2	69.7		
	合計	34.7	24.2			
	1回あたり費用		1,650	※ 1,322	80.1	
	参加希望率 (%)		11.1	13.3	119.8	

※筆者修正値

は、用具の年間購入額が85%も増加しています。他の発表資料によればゴルフ用品市場内

出荷額は2009年前年対比マインナスでしたからレジャー白書のこの数値はあまり参考になりません。平均活動回数、1回あたり費用なども同様です。

コース潜在人口の回復
レジャー白書で最も重要な指標はゴルフ参加率とゴルフ参加人口です。参加人口は「対象人口×参加率」で求められます。2010・レジャー白書は全国有効回収3110人のうち「過去1年間ゴルフコースを利用した」と回答した人数の%をゴルフコース参加率として

しているのです。1985年以降のコース参加人口と練習場参加人口の推移を「グラフ1」としました。このグラフから

①過去、練習場参加人口は常にコース参加人口より大きかった。②それは練習場を利用するが、まだコースは利用していない人口(筆者は「コース潜在人口と呼んでいます」)が常に存在した。③バブル期にコース潜在人口が特に増大した。これがゴルフブームのエネルギ源だった。④コース潜在人口は2001年に

ブームは希望参加率の上昇が先導「今ゴルフはしていないが将来やりたい」と回答した希望参加率は将来需要予測に重要な指標です。1985年以降のコース、練習場希望参加率・実際参加率の推移を「グラフ2」としました。バブル期に注目してください。①「コースでプレーしてみたい(ゴルフへの憧れ)」「コース希望参加率が最も高くなった。②次いで「そのためには練習場でクラブを振ってみたい」と練習場希望参加率が上昇した。③「これならコースに出ても大丈夫

コース(8・6%↓9・4%)、練習場(8・6%↓10・3%)と上昇しました。練習場は20%近い大きな上昇です。

①参加人口
参加率上昇の結果、参加人口もコースは10万人増、練習場では110万人増となりました。

②希望参加率
「今後ゴルフをやってみたい」と回答した割合もコースで29%アップ、練習場は20%アップと大きく上昇しています。

③コース潜在人口の回復
レジャー白書で最も重要な指標はゴルフ参加率とゴルフ参加人口です。参加人口は「対象人口×参加率」で求められます。2010・レジャー白書は全国有効回収3110人のうち「過去1年間ゴルフコースを利用した」と回答した人数の%をゴルフコース参加率として

しているのです。1985年以降のコース参加人口と練習場参加人口の推移を「グラフ1」としました。このグラフから

①過去、練習場参加人口は常にコース参加人口より大きかった。②それは練習場を利用するが、まだコースは利用していない人口(筆者は「コース潜在人口と呼んでいます」)が常に存在した。③バブル期にコース潜在人口が特に増大した。これがゴルフブームのエネルギ源だった。④コース潜在人口は2001年に

ブームは希望参加率の上昇が先導「今ゴルフはしていないが将来やりたい」と回答した希望参加率は将来需要予測に重要な指標です。1985年以降のコース、練習場希望参加率・実際参加率の推移を「グラフ2」としました。バブル期に注目してください。①「コースでプレーしてみたい(ゴルフへの憧れ)」「コース希望参加率が最も高くなった。②次いで「そのためには練習場でクラブを振ってみたい」と練習場希望参加率が上昇した。③「これならコースに出ても大丈夫

ブームは希望参加率の上昇が先導「今ゴルフはしていないが将来やりたい」と回答した希望参加率は将来需要予測に重要な指標です。1985年以降のコース、練習場希望参加率・実際参加率の推移を「グラフ2」としました。バブル期に注目してください。①「コースでプレーしてみたい(ゴルフへの憧れ)」「コース希望参加率が最も高くなった。②次いで「そのためには練習場でクラブを振ってみたい」と練習場希望参加率が上昇した。③「これならコースに出ても大丈夫

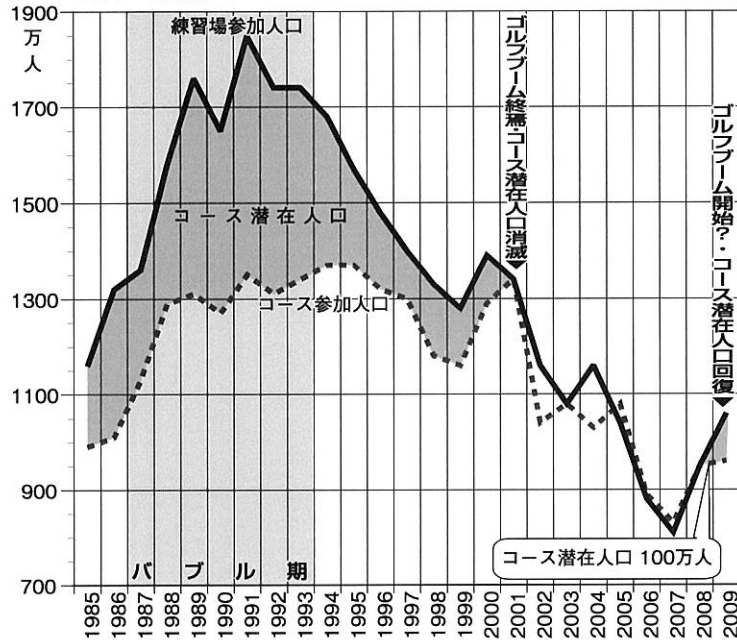
ブームは希望参加率の上昇が先導「今ゴルフはしていないが将来やりたい」と回答した希望参加率は将来需要予測に重要な指標です。1985年以降のコース、練習場希望参加率・実際参加率の推移を「グラフ2」としました。バブル期に注目してください。①「コースでプレーしてみたい(ゴルフへの憧れ)」「コース希望参加率が最も高くなった。②次いで「そのためには練習場でクラブを振ってみたい」と練習場希望参加率が上昇した。③「これならコースに出ても大丈夫

ブームは希望参加率の上昇が先導「今ゴルフはしていないが将来やりたい」と回答した希望参加率は将来需要予測に重要な指標です。1985年以降のコース、練習場希望参加率・実際参加率の推移を「グラフ2」としました。バブル期に注目してください。①「コースでプレーしてみたい(ゴルフへの憧れ)」「コース希望参加率が最も高くなった。②次いで「そのためには練習場でクラブを振ってみたい」と練習場希望参加率が上昇した。③「これならコースに出ても大丈夫

ブームは希望参加率の上昇が先導「今ゴルフはしていないが将来やりたい」と回答した希望参加率は将来需要予測に重要な指標です。1985年以降のコース、練習場希望参加率・実際参加率の推移を「グラフ2」としました。バブル期に注目してください。①「コースでプレーしてみたい(ゴルフへの憧れ)」「コース希望参加率が最も高くなった。②次いで「そのためには練習場でクラブを振ってみたい」と練習場希望参加率が上昇した。③「これならコースに出ても大丈夫

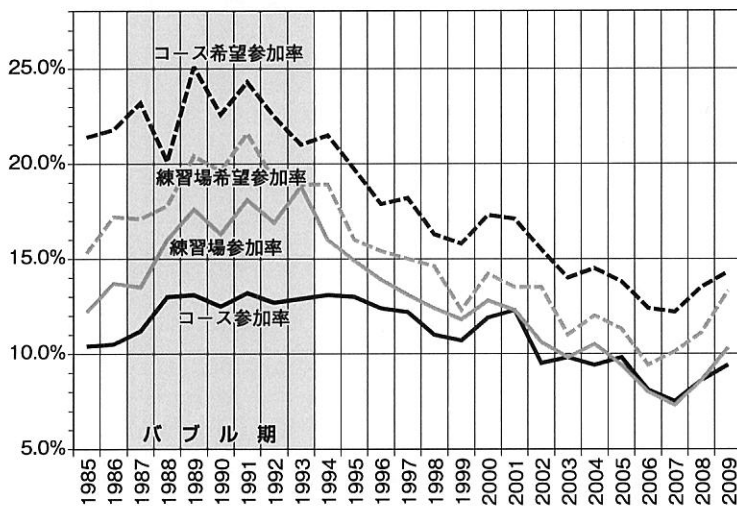
●ゴルフ人口の推移

グラフ1



●コース・練習場 希望参加率推移：参加率推移

グラフ2



夫」と思えるまで練習場参加率が上昇した。
 ④「ゴルフってこんなに楽しいもの」と最後にコース参加率の上昇する。
 という因果関係・プロセスが読み取れます。コース参加人口の増加（コース入場者の増加）にはコース潜在人口が回復しなければなりません。そのためにはコース希

年代別参加率の変化

この明るい兆候がどの年代を中

望参加率の上昇（ゴルフプレーへの憧れの高まり）が必要なのです。2009年はコース・練習場いずれも希望参加率が大きく上昇しました。コース潜在人口の増加を裏付ける希望参加率の上昇が存在するのです。

心に発生したかが重要となります。（表2）に年代別参加率の変化を表示しました。
 ①コース参加率は男性30代・60代以上、女性は20代・40代・50代・60代以上の世代で大きく上昇した。特に20代・60代以上が激増した。
 ②練習場参加率は男性30代・50代・60代以上、女性は20代以上

地域別参加率の変化

他方において「地方のゴルフ場、練習場では、そんな明るい傾向はみられない」といった業界の実感もあります。地域間格差が大きくなっている恐れもあります。地域別参加率の変化を（表3）としました。練習場参加率・対前年比増加率で降順に並び替えています。
 ①東京、兵庫、大阪、愛知、埼玉など大都市圏は対前年比プラスで上位に位置している。
 ②他方、大都市圏でも千葉、神奈川県が対前年比マイナスとなっている。
 以上から2010レジャー白書による「日本全体では参加率・参加人口が上昇し、コース潜在人口が回復した」という明るい変化は

すべての世代で大きく上昇した。
 ③しかし需要の中核である40代以上の男性参加率は下降した。
 以上から「ゴルフ練習場に女性・若年世代の入場者が増加している」「それは遼君や女子プロの活躍効果だ」という都市圏の市況、マスコミトレンド情報と一致します。つまり「ゴルフへの憧れの高まり」が起きているといえます。

●年代別参加率の変化

表2

		コース		練習場			
		2008	2009	2008	2009		
男性	10代 (15-19)	1.4		5.7	2.3	40.4%	
	20代	7.1	4.2	59.2%	13.0	11.5	88.5%
	30代	11.4	14.6	128.1%	12.3	19.9	161.8%
	40代	19.4	17.2	88.7%	17.9	14.0	78.2%
	50代	20.5	17.7	86.3%	15.6	16.2	103.8%
	60代以上	21.3	23.3	109.4%	16.1	20.1	124.8%
女性	10代 (15-19)					1.8	
	20代	0.6	5.1	850.0%	5.5	9.2	167.3%
	30代	2.0	1.7	85.0%	2.4	4.1	170.8%
	40代	1.4	2.3	164.3%	2.3	3.8	165.2%
	50代	3.7	4.1	110.8%	4.6	4.8	104.3%
	60代以上	1.2	4.0	333.3%	1.8	3.6	200.0%

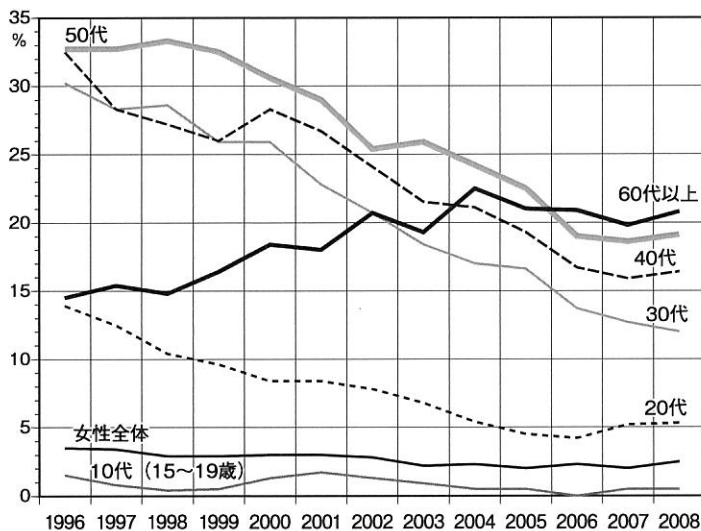
●地域別参加率の変化

表3

	回収数		コース			練習場		
	2008	2009	2008	2009		2008	2009	
				前年比	前年比			
静岡	73	86	8.2	11.6	141.5%	2.7	9.3	344.4%
三重・奈良・和歌山	72	99	5.6	13.1	233.9%	4.2	14.1	335.7%
北東北	84	125	4.8	7.2	150.0%	4.8	9.6	200.0%
大分・宮崎・鹿児島	60	102	6.7	6.9	103.0%	5.0	8.8	176.0%
東京	296	308	8.8	13.3	151.1%	8.8	13.6	154.5%
新潟	48	62	2.1	8.1	385.7%	6.3	9.7	154.0%
北関東	124	176	12.1	13.1	108.3%	9.7	14.2	146.4%
兵庫	118	123	11.9	12.2	102.5%	11.9	17.1	143.7%
大阪	193	226	5.7	10.2	178.9%	8.3	10.6	127.7%
愛知	149	179	6.7	7.8	116.4%	8.1	10.1	124.7%
埼玉	130	180	10.8	7.8	72.2%	8.5	10.0	117.6%
北海道	96	140	13.5	8.6	63.7%	8.3	9.3	112.0%
滋賀・京都	85	110	8.2	8.2	100.0%	8.2	9.1	111.0%
南関東	73	112	4.1	6.3	153.7%	4.1	4.5	109.8%
北陸	48	80	6.3	6.3	100.0%	8.3	8.8	106.0%
長野・山梨	48	66	10.4	15.2	146.2%	12.5	12.1	96.8%
千葉	143	141	10.5	10.6	101.0%	12.6	11.3	89.7%
神奈川	185	232	9.2	8.6	93.5%	11.4	9.1	79.8%
中国	133	174	11.3	5.2	46.0%	7.5	5.7	76.0%
福岡	97	122	11.3	6.6	58.4%	11.3	8.2	72.6%
岐阜	38	50	15.8	8	50.6%	15.8	8.0	50.6%
四国	62	93	6.5	3.2	49.2%	11.3	4.3	38.1%
長崎・佐賀・熊本	60	97		10.3			9.3	
沖縄		27		22.2			18.5	
合計	2415	3083						

●コース参加率 年代別推移 3カ年移動平均

グラフ3



年代別・地域別次元ではゴルフ産業の実感とつきり整合しないこととなります。では2010レジヤール白書の報告するゴルフ産業の明るい兆候はどの程度まで信頼できるのでしょうか。特にインターネット調査への変更に昨年データとの非連続性の問題もあります。筆者の結論は「全体参加率・参加人口の好転、コース潜在人口の回復は信頼してよい」というも

のです。無論、調査方法の変更に
よる従前データとの連続性検証が
されていないので論理的な根拠は持
ち合わせていません。
年代・地域別データの限界
(表3)に2008年、2009
年地域別有効回収数を表示してい
ます。東京で言えば2008年・
296人、2009年・308人
が調査回答人数です。2009年

東京コース参加率は13・6%です
から42人が「過去1年間にコース
を利用した」と回答したのです。
すなわち東京都民一千万人のゴル
フ参加率を308人で推定してい
るのです。年代・地域別のデータ
はこの統計誤差限界があり年毎に
大きくブレることは不可避です。
このブレ幅を除去するため198
5年以降の三カ年移動平均年代別
参加率を(グラフ3)として表示

しました。2007年以降回復の
兆しは見られますがバブル期には
遠く及ばないことが確認できます。
待たれる社会生活基本調査
レジヤール白書データ連続性の検
証やゴルフ産業として不可欠の信
頼性ある年代別・地域別データと
して来年発表される総務省・社会
生活基本調査がますます重要性を
増してきました。